

第25回

ヤマト福祉財団小倉昌男賞 募集



正 賞：雨宮 淳氏作 ブロンズ像「愛」

副 賞：賞金 100万円

募集期間：2024年6月1日～8月31日

公益財団法人ヤマト福祉財団

障がい者の自立支援などで、「この人こそ……」
と思われる方をぜひ推薦ください。

ヤマト福祉財団小倉昌男賞の候補者を募集します。 「この人こそ……」と思われる方を奮ってご推薦くださるよう お願いいたします。

当財団では、障がい者の仕事づくりや雇用の創出、拡大、労働条件の改善などを積極的におし進め、障がい者に働く喜びと生きがいをもたらしている人の中から毎年2名の方に『ヤマト福祉財団小倉昌男賞』を贈っています。あなたの周りに「この人こそ……」と思われる方がおられましたら、ぜひご推薦くださいますようお願いいたします。

なお、以前ご推薦いただいた方も候補者の対象となりますので、再度ご推薦いただければ幸いです。

1 賞の対象

日本国内に居住し、障がい者福祉施設、または民間企業の労働現場などにおいて、障がい者に積極的に働く機会を提供するなど次のいずれかに該当する個人を対象とします。

- ①給与をはじめ労働条件の改善を通じて、働く障がい者の生活向上に大きく貢献している方。
- ②障がい者に適した仕事や、労働環境づくりを工夫するなど、つねに障がい者の立場を考えて雇用拡大に努力し、著しい実績をあげている方。
- ③障がい者に熱心に仕事を教え、多くの障がい者を自立した職業人として育てあげてきた方。
- ④障がい者を手助けしたり、励まして、障がい者が喜びをもって働き続けていくことを可能にしている方。
- ⑤障がい者の日常生活の良き相談相手となり、それによって多くの障がい者に生きる自信と喜びをもたらしている方。

2 賞の内容

- ①正賞：ブロンズ像「愛」 雨宮淳氏（1937年-2010年日本藝術院会員）作
- ②副賞：賞金 100万円

3 受賞者数

2名以内とします。

4 募集方法

賞の候補者は、障がい者および障がい者福祉関係者の中から「推薦形式」によって募集します。ただし「他薦」とします。同一法人内の推薦は自薦とみなされます。

5 募集期間

候補者の募集期間は、2024年6月1日から8月31日までとします。

6 応募方法

「ヤマト福祉財団小倉昌男賞候補者推薦書」（別紙）に所要事項を記入し、郵便で（公財）ヤマト福祉財団宛に送付して下さい。推薦する方（賞の候補者）は、1名とします。

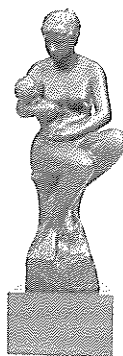
※候補者の略歴や実績・業績も一覧表形式で添付してください。

7 提出書類

- ヤマト福祉財団小倉昌男賞候補者推薦書
- 候補者の略歴や実績・業績（一覧表形式）

8 受賞者の選考

- ①受賞者を選考する機関として「選考委員会」を設置しています。
- ②選考委員会は、推薦された候補者の中から2名以内の受賞者を選考、決定します。



より多くの方に
受賞の喜びを

贈呈式の様子をネットで
配信しています

第24回ヤマト福祉財団小倉昌男賞贈呈式は、
YouTubeでライブ配信されました。
各地の方々も贈呈式の様子をご視聴いただけます。
ヤマト福祉財団の公式YouTubeチャンネルからご視聴ください。



9 選考委員

次の各氏が選考委員として選考にあたります。

今野 由梨 (ダイヤル・サービス株式会社 代表取締役社長)
蒲原 基道 (日本社会事業大学専門職大学院客員教授 元厚生労働事務次官)
藤井 克徳 (NPO法人日本障害者協議会代表 きょうされん専務理事)

山内 雅喜 (公益財団法人ヤマト福祉財団 理事長)
森下 明利 (ヤマトグループ企業労働組合連合会 会長)

(順不同 敬称略)

10 受賞者の発表

受賞者は、2024年10月末に発表します。

11 賞の贈呈式

2024年12月5日(木)、東京都千代田区「一般社団法人日本工業倶楽部」において贈呈式ならびに受賞祝賀会を開催します。

「ヤマト福祉財団小倉昌男賞」は、これまで次の方々を受賞されました。

第1回 2000年度

- 伊藤 静美氏 (社会福祉法人一委會・委の郷 常任理事)
- 金子 鮎子氏 (株式会社ストローク 代表取締役)

第2回 2001年度

- 日浦美智江氏 (社会福祉法人 訪問の家 理事長)
- 伊沢 雄一氏 (社会福祉法人 はらからの家福祉会 施設長)

第3回 2002年度

- 小島 靖子氏 ((有)ヴィ王子 取締役・スワンベーカー十茶店 店長)
- 武田 元氏 (はらから会 会長・知的障害者通所授産施設「磁玉すずしろ」 施設長)

第4回 2003年度

- 谷口奈保子氏 (NPO法人 ぱれっと 理事長)
- 永山 盛秀氏 (「わんからセンター」 相談員)

第5回 2004年度

- 天野 貴彦氏 (町田市障がい者就労・生活支援センターらいむ センター長)
- 松村 茂利氏 (大阪うどん「つくし」 店長)
- 秋元波留夫氏 (金沢医科大学 客員教授、日本精神衛生会 会長、日本精神保健政策学会 会長)
- 調 一興氏 (社会福祉法人 東京コロニーおよび社団法人 センコロ 名誉会長)

第6回 2005年度

- 太田 勇氏 (調布市社会福祉事業団 知的障害者通所授産施設すまいる 施設長)
- 宮崎 潔氏 (社団法人 愛知県セルフセンター 名古屋市障害者雇用支援センター 所長)

第7回 2006年度

- 亀井 勝氏 (社会福祉法人 ひびき福祉会 理事長)
- 高橋 昌巳氏 (社会福祉法人 桜雲会 理事長)

第8回 2007年度

- 山田 昭義氏 (社会福祉法人 AJU自立の家 常務理事)
- 西澤 心氏 (社会福祉法人 まいづる福祉会 ワークショップほのぼの屋 施設長)
- 丸山 一郎氏 (埼玉県立大学 保健医療福祉学部社会福祉学科 教授)

第9回 2008年度

- 山下 ヤス子氏 (社会福祉法人 まほろば福祉会 理事長)
- 新堂 薫氏 (社会福祉法人 武蔵野千川福祉会チャレンジャー 施設長)

第10回 2009年度

- 大場 俊孝氏 (特定非営利活動法人 栗原市障害者就労支援センター「NPOステップアップ」 理事長、株式会社 大場製作所 代表取締役)
- 中崎 ひとみ氏 (社会福祉法人共生シンフォニー 常務理事、就労継続支援A型事業所「がんばカンパニー」 所長)

第11回 2010年度

- 佐治リエ子氏 (社会福祉法人 さっぽろひかり福祉会 統括管理者)
- 北山 守典氏 (NPO法人ワークネット 理事・事務局長)

第12回 2011年度

- 清田 廣氏 (社団法人 大阪聴力障害者協会 副会長)
- 柴田 智宏氏 (社会福祉法人 霧山慶光園 ワークスひるぜん 理事・所長)

第13回 2012年度

- 楠元 洋子氏 (社会福祉法人 キャンパスの会 理事長)
- 堀込真理子氏 (社会福祉法人 東京コロニー IT事業本部 トーコロ情報処理センター 職能開発室 所長)

第14回 2013年度

- 風間美代子氏 (特定非営利活動法人 多摩草むらの会 代表理事)
- 熊田 芳江氏 (社会福祉法人 こころん 常務理事・施設長)

第15回 2014年度

- 宮嶋 望氏 (農事組合法人 共働学会新得農場 代表、特定非営利法人 共働学会 副理事長)
- 佐伯 康人氏 (株式会社 パーソナルアシスタント青空 代表取締役)

第16回 2015年度

- 西谷久美子氏 (社会福祉法人 はる 常務理事)
- 林 博文氏 (特定非営利活動法人 ピアファーム 理事長)
- 花田 春兆氏 (俳人・特定非営利活動法人 日本障害者協議会 顧問)

第17回 2016年度

- 奥脇 学氏 (有限会社 奥進システム 代表取締役、公益社団法人全国重度障害者雇用事業所協会 常務理事)
- 竹内 昌彦氏 (社会福祉法人 岡山ライトハウス 理事長)

第18回 2017年度

- 山内 民興氏 (社会福祉法人 ぶらぼの 理事長)
- 松浦 一樹氏 (特定非営利活動法人 ENDEAVOR EVOLUTION 理事長兼事業長 株式会社 REGEND 代表取締役)

第19回 2018年度

- 上野 容子氏 (社会福祉法人 豊志会 理事長)
- 村上 和子氏 (社会福祉法人 シンフォニー 理事長)

第20回 2019年度

- 田川 精二氏 (特定非営利活動法人 大阪精神障害者就労支援ネットワーク 理事長)
- 廣田しづえ氏 (公益社団法人 大阪聴力障害者協会 副会長)

第21回 2020年度

- 奥西 利江氏 (社会福祉法人 進雄幸育会 統括管理者、ふつくりあまオンマル 管理者)
- 佐藤 春光氏 (社会福祉法人 ホープ 常務理事、フロンティア 統括施設長)

第22回 2021年度

- 大矢 暹氏 (社会福祉法人 ひょうご聴覚障害者福祉事業協会 理事長)
- 川上 聖子氏 (社会福祉法人 エルム福祉会 理事、hikari no café 蜂蜜小珈琲店 施設長)

第23回 2022年度

- 中山みち代氏 (社会福祉法人 パレット・ミル 常務理事)
- 山口由紀子氏 (社会福祉法人 ハイジ福祉会 理事長)

第24回 2023年度

- 飯田 大輔氏 (社会福祉法人 福祉楽団 理事長)
- 加藤 裕二氏 (社会福祉法人 オリーブの樹 理事長)

「ヤマト福祉財団小倉昌男賞」
候補者推薦書の送付先及び
お問合せ先

〒104-8125 東京都中央区銀座2-16-10
TEL. 03-3248-0691 FAX. 03-3542-5165
<https://www.yamato-fukushi.jp/>

*推薦書(別紙)の用紙が足りない場合は、コピーをするか(公財)ヤマト福祉財団までご請求下さい。

障がい者の自立と社会参加を支援する—— 公益財団法人ヤマト福祉財団



写真は第24回ヤマト福祉財団小倉昌男賞の贈呈式(2023年12月7日)。受賞者は、加藤裕二氏(写真前列左から2番目)、飯田大輔氏(左から3番目)。

ヤマト福祉財団は、こんな財団です。

(公財)ヤマト福祉財団は、心身に障がいのある人々の「自立」と「社会参加」を支援することを目的に、1993年9月、クロネコヤマトの宅急便の生みの親である、ヤマト運輸株式会社元社長 小倉昌男(当財団初代理事長)の個人資産の寄付により創設されました。

財団の母体となっているのは、ヤマトホールディングス株式会社とそのグループ会社、ヤマトグループ企業労働組合連合会、各グループ会社の社員と労働組合員、約18万名です。法人、個人の賛助会員として又、労働組合のカンパ活動として資金面の援助を続けながら、日常の財団活動を多岐に渡って支えています。なお、2024年3月末現在の財団の基本財産は約60億円となっています。

ヤマトグループの「企業姿勢」のなかに「地域社会から信頼される企業」として「ヤマトグループは、地域社会から信頼される事業活動を行うとともに、豊かな地域づくりに貢献します。特に、障がいのある方を含む社会的弱者の自立支援を積極的に行います。」と障がい者支援が明記されています。

ヤマト福祉財団は、こんな事業を展開しています。

- 障がい者福祉のための各種事業への助成=障がいがある学生たちへの奨学金、障がい者の自立と社会参加に関する事業への助成などを行っています。
- 障がい者の働く場「パワーアップフォーラム」の開催=障がい者の働く場や施設・事業所のあり方を実践している講師の方々と考え、地域での取組を交えたフォーラムを開催します。
- 「ヤマト福祉財団小倉昌男賞」の贈呈=障がい者の自立支援に、著しく貢献した方々を顕彰するこの賞も事業活動の一つです。
- 実践塾=障がい者の工賃の飛躍的向上を目的として、小倉昌男賞受賞者の指導力や実行力を活かし、有志とともに障がい者の働く環境や能力を革新的に高め、自立への道筋を作ります。
- 「スワンベーカリー」のチェーン店展開=障がい者の働く場づくりを目的に設立されたパンの店「スワンベーカリー」。全国にその輪を広げています。

※詳しくは(公財)ヤマト福祉財団のホームページをご覧ください。

<https://www.yamato-fukushi.jp/>

